

静岡県東部地域へのJリーグクラブ創設提案

The proposition to establish a club of J-league in the eastern part of Shizuoka

1K03B015-8 氏名 池谷 美絵子

指導教員 主査 リー・トンプソン 先生 副査 間野 義之 先生

<序 章 はじめに>

静岡県東部地域に、Jリーグクラブを作りたい。それが、本論文を書き始めるきっかけとなった思いである。

<第1章 背景>

本論文では、静岡県を、西部・中部・東部の3地域に分類している。

2006年8月現在、Jリーグ1部（通称J1）の選手の出身地で最も多いのが、静岡県だ。県中部には、J1の清水エスパルスがあり、高校サッカー選手権大会での優勝経験がある県内高校5校が、全て集まっている。県西部には、ジュビロ磐田がある。この2クラブの試合は“静岡ダービー”と呼ばれ、大きな盛り上がりを見せるのだ。その一方、サッカーの強豪校もクラブもない東部は、県内のサッカー文化から、取り残されている。

しかし、小野伸二（2006年10月現在、J1・浦和レッズ所属）や、高原直泰（2006年10月現在、ドイツブンデスリーガ・フランクフルト所属）は、東部出身の選手なのだ。しかし2人とも、高校進学時には、中部のサッカー強豪高校に進学してしまった。例え今後、彼らのような選手が東部に現れたとしても、成長できる環境がない限り、東部から出て行ってしまうということが予想されるだろう。

東部という地域の持つ可能性、そしてサッカー文化との確かな繋がりを確認し、私は、静岡県東部地域にJリーグクラブを創設するという提案を、本論文で展開することに決めたのである。

<第2章 理想のクラブの条件>

今回、新しいJリーグクラブを作るという課題にあたり、理想のクラブの条件として、私は次の2つを考えた。

- ・ 多くの観客を集められること
- ・ 安定して観客を集められること

「多くの観客を集められること」という条件を満たしているJリーグのクラブを、2005年度までのデータを利用して探した結果、浦和レッズとアルビレックス新潟が該当していた。そこで、浦和と新潟の1試合平均入場者数と、①成績 ②ホームタウン人口 ③ホームタウン人口年代別構成比率 ④スタジアム観戦者の平均アクセス時間 ⑤クラブを象徴するものにおける地域性 という5要素

との関わりを検証したのである。結果、「クラブを象徴するものにおける地域性」に、2クラブの1試合平均入場者数との関係性が認められた。つまり、多くの観客を集められるクラブを作るためには、クラブと地域との間に良い関係を築き、地域の人々に愛されるようなクラブを目指すべきだということである。

一方、「安定して観客を集められること」という条件は、ジュビロ磐田、横浜F・マリノス、清水エスパルスが満たしていた。そこで、磐田・横浜FM・清水の集客安定率と、①成績 ②ホームタウン人口年代別構成比率 ③スタジアム観戦者の平均アクセス時間 ④クラブを象徴するものにおける地域性 という4要素との関わりを検証したのである。結果、「成績」に、3クラブの集客安定率との関係性が認められた。つまり、安定して観客を集められるクラブを作るためには、サポーターに愛され、サポーターが誇りに思うような強いクラブを目指すべきだということである。

<第3章 ホームタウンの選定>

ホームタウンの選定に伴い、本論文では、スタジアムを基準に考えていく。Jリーグの参加条件に、一定条件を揃えたスタジアムの確保が義務付けられているからだ。静岡県東部で、条件に近いスタジアムを持っているのは、沼津市・御殿場市・裾野市・富士市の4都市であるため、この4都市をホームタウンの候補地とした。

<第4章 結論>

考察の結果、「多くの観客を安定して集められること」という条件を満たす理想のクラブを作るには、地域との交流が深く、且つ戦力の高いクラブ作りを心がけるべきだということがわかった。そういったクラブ作りを実行していくことができるのならば、静岡県東部のどの市町村でも、新しいクラブのホームタウンになれる可能性はあるのだ。

<終 章 おわりに>

本論文で展開してきた提案を、実現性の高いものにしていくためにも、更なる詳しい調査・考察が必要であろう。静岡県東部にJリーグクラブが創設される日を目指して、より具体的な提案の完成が望まれる。